

ation 教育に新聞を

毎週火曜掲載

# 新聞 当事者意識養う

▼実践

コラム

力試し

現場

教育に新聞を活用する方法を考える「第23回NIE全国大会」(日本新聞協会主催、岩手日報社など主管)が7月26、27の両日、盛岡市などで開かれた。東日本大震災の被災地での開催は初めてで、大会スローガンは「新聞と歩む 復興、未来へ」。全国から教育、新聞関係者ら約1600人が集まり、発表や討論をした。宮城県からは25人が参加した。

## NIE全国大会盛岡で開催



読むことで切実さを感じ、自分のこととしてリアルに考え、災害への備えが動機づけられる」と話した。

### 経験を伝える

全国の学校で行われている朝読書の時間に、切り抜いてきた新聞について発表された。大船渡市第一中1年だった宮城教育大3年の高橋莉子さん(21)は、震災から1週間後に学校新聞「希望」を発行。避難所や仮設住宅を訪れ、一人一人に手渡した。「地域の皆さんを励ましたいと始めたが、地域の人たちとのつながりや、全国の人たちからの支援も広がり、逆に私たちが励まされた」と振り返った。

### 地域の接着剤

1日目は、明治大の斎藤孝教授が「新聞力と復興」と題して記念講演。「災害で大事なのは経験の共有」とした上で、「新聞には蓄積された記録が残り、教材として優れている。新聞を

## 防災・復興へ情報共有

読むことで切実さを感じ、自分のこととしてリアルに考え、災害への備えが動機づけられる」と話した。続いて、震災を経験した子どもたちや、教育に携わる人たちによる座談会が開かれた。

### 地域の接着剤

岩手県立総合教育センターの藤岡宏章所長は、新聞の役割について「学校と学校、学校と地域、子どもたちと社会をつなぐ接着剤のようなもの」とした。震災時に、それぞれの地域で子どもたちがどんな活動をしているのかを新聞が伝えてくれることよって情報共有ができたとし、「点から線、線から面への広がりを新聞が果たした」と評価した。



盛岡市で開かれたNIE全国大会＝7月26日

2日目は、学校でのNIEの実践事例が紹介された。同県大槌町の大槌学園による復興をテーマにした公開授業などに注目が集まった。

来年の大会は、8月に宇都宮市で開かれる。